

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0250

(注)本稿は 2012 年 11 月 19 日から 29 日まで 6 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.11.30

前田 高行

中東・北アフリカ(MENA)諸国の国防支出と兵力ランキング

(MENA なんでもランキング・シリーズ その18)

目次	頁
1. 国防費総額の比較: 圧倒的なサウジアラビア、一国でMENA全体の 3 割強	2
2. 世界トップの UAE の国民一人当たり国防費	2
3. 10%を超えるサウジアラビアの GDP 国防費比率	3
4. 日本、米国等との比較	4
5. 兵力の比較: 正規兵力ではイラン、トルコ、エジプト、予備役を加えるとイスラエルが No.4	4
6. 主要国の国防費の推移: 毎年伸びているサウジアラビアと中国、中国は過去5年間で倍増	5

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら 19 カ国・1 機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第18回の MENA ランキングは、世界の軍事分析で有名な英国のシンクタンク「国際戦略研究所 (International Institute for Strategic Studies、略称 IISS)」が発表した「The Military Balance 2012」に基づいてパレスチナ自治政府を除く19カ国をとりあげて比較しました。なお理解を促すため MENA 以外の日本、米国、NATO (但し米国を除く)、ロシア、中国及び全世界のデータについても随時比較することとします。

1. 国防費総額の比較: 圧倒的なサウジアラビア、一国でMENA全体の3割強

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/18-T01.pdf参照)

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/18-G01.pdf参照)

サウジアラビアの2010年の国防費は452億ドルであり MENA 諸国の中では突出して大きい。因みにサウジアラビアに次いで国防費が多いのはトルコの174億ドルであり、サウジアラビアの3分の1強にすぎない。この2カ国に続くのがUAE(161億ドル)、イスラエル(140億ドル)及びイラン(106億ドル)でこれら5カ国が100億ドルを超えている。サウジアラビア一国でMENA19カ国の国防費総額の3割強を占めており、また上位5カ国の国防費はMENA全体の7割強に達する。MENAの国防費は一部の国が極めて多いことが特徴である。

第6位のアルジェリアは上位5カ国よりかなり低い56億ドルであり、第7位以下はイラク(48億ドル)、クウェイト(47億ドル)、オマーン(42億ドル)、エジプト(41億ドル)が40億ドル台で拮抗している。これら上位10カ国のうちの4カ国(サウジアラビア、UAE、クウェイト、オマーン)はアラビア(ペルシャ)湾沿岸の君主制国家であり、カタール及びバハレーンとともにGCC(湾岸協力機構)を構成している。またこの4カ国にイラン、アルジェリア及びイラクを加えると上位10カ国中7カ国を産油国が占めている。このような中で4位のイスラエルは周辺をアラブ・イスラム諸国に取り囲まれた異色の非産油・軍事大国である。

一方バハレーン(7.4億ドル)、チュニジア(5.4億ドル)は国防費が10億ドル以下にとどまっております。サウジアラビアの60~80分の1、イスラエル、トルコの20~30分の1に過ぎない。但し MENA トップのサウジアラビアでも世界的に見れば日本(544億ドル)よりも90億ドル少なく、米国(6,936億ドル)の15分の1にとどまっている。

2. 世界トップの UAE の国民一人当たり国防費

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/18-G02.pdf参照)

国民一人当たりの国防費でみると、トップは UAE の3,227ドルであり、これは2位イスラエル(1,910ドル)の1.7倍に達する。UAE の一人当たりの国防費は MENA 諸国の中で突出して高いと同時に世界一でもある。UAE、イスラエルに続くのがクウェイト(1,830ドル)、カタール(1,813ドル)、サウジアラビア(1,755ドル)、オマーン(1,408ドル)であり、これら6カ国は一人当たり国防費が1,000ドルを超えている。

これに次いで MENA で7番目に多いのはバハレーン(624ドル)であるが、因みに MENA の平均一人当たり国防費は732ドルである。上位7カ国のうちイスラエルを除く6カ国は GCC 諸国である。

GCC はイスラム教スンニ派の絶対君主制国家であり、ペルシャ(アラビア)湾を挟んでシーア派のイスラム共和制国家イランと対峙しているため国防費に多額の予算を割り振っているのである。

バハレーン及びカタールは国防費総額の順位が MENA19カ国中それぞれ14位、16位であるにもかかわらず(前項参照)一人当たり国防費はMENAの4位及び7位である。両国とも人口が少ないにも関わらず国防費が相対的に大きいことを示している。また非産油国のイスラエルの一人当たり国防費支出はクウェイト、カタール、サウジアラビアなど GCC 産油国をしのいでおり同国々民の国防費負担は非常に大きい。

8位はリビア及びレバノンであるが、両国の一人当たり国防費は393ドルであり、6位(オマーン)と7位(バハレーン)、さらに7位と8位の間には大きな開きがある。以下、トルコ及びヨルダンは200ドル台、イラク、アルジェリア、イラン、シリア、モロッコの各国が100ドル台にとどまっている。これらの国々とイスラエル或いは GCC 諸国との格差は極めて大きい。

全世界平均の一人当たり国防費は225ドルでありトルコ(224ドル)がほぼその水準にあるが、UAE は世界平均の14.4倍、イスラエル、クウェイト、カタール、サウジアラビア等は世界平均の8倍前後に達している。

因みに日本、米国及び中国3カ国の一人当たり国防費は日本426ドル、米国2,024ドル、中国57ドルである。日本はリビア、レバノンを少し上回るレベルであり、米国はイスラエルを若干上回る規模である。そして中国は MENA のいずれの国よりも一人当たり国防費が少ない。

3. 10%を超えるサウジアラビアの GDP 国防費比率

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/18-G03.pdf参照)

国防費を各国の GDP 比率で見ると、最も高いのはサウジアラビアの10.10%であり、MENA の中で唯一10%を超えている。次に高いのはオマーン7.26%、イスラエル6.46%、イラク6.04%、イエメン5.82%、ヨルダン5.42%、UAE5.32%であり、これら7カ国が GDP に占める国防費の比率が5%以上の国である。

MENA の平均 GDP 比率は4.13%でありレバノンがほぼその規模である。3%台にはシリア、リビア、アルジェリア、クウェイト、モロッコ、バハレーンの各国が並んでいる。地域の軍事大国と言われるイラン、トルコ及びエジプトの比率はそれぞれ2.56%、2.38%及び1.94%であり MENA19カ国の中では15位~18位の最下位クラスである。因みに全世界の平均は2.43%でありイラン、トルコがその水準にある。サウジアラビア、イスラエルの対 GDP 国防費が如何に高いかがわかる。

米国、日本、中国の対 GDP 国防費比率は米国4.31%、日本1.00%、中国1.30%である。米国の比率はほぼ MENA の平均値に近いが世界平均(2.43%)をかなり上回っている。一方、日本と中国はいずれも1%台であり世界平均を下回り MENA で最も低いチュニジアと同程度である。

4. 日本、米国等との比較

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/18-T01.pdf参照)

上記各項でも一部言及したが、MENA 各国と日本、米国、NATO(米国を除く)、ロシア及び中国を比較する。

まず国防費総額で見ると米国は6,936億ドルで全世界の国防費(1.5兆ドル)の半分近くを占めており、MENA トップのサウジアラビア(452億ドル)の15倍、MENA 全体の合計国防費(1,439億ドル)の5倍と飛び抜けている。また NATO(米国を除く)全体の国防費は9,795億ドル、中国764億ドル、日本544億ドルであるが、これは MENA1位のサウジアラビアに比べ NATO は22倍、中国は1.7倍そして日本は1.2倍である。ロシア(419億ドル)はサウジアラビアより少ない。

一人当たりの国防費では米国が2,024ドルであり、これは MENA トップの UAE(3,227ドル)よりは少ないがイスラエル、サウジアラビア等を上回っている。日本は一人当たり426ドルであり、これは MENA 諸国と比べるとリビア或いはレバノンとほぼ同じレベルであるが、イスラエル或いはサウジアラビアの4分の1である。世界一の人口を擁する中国の国防費は一人当たりに換算するとわずか57ドルであり、MENA で最も低いエジプトとほぼ同程度である。

国防費の GDP 比率で見ると米国は4.31%でサウジアラビア(10.10%)或いはイスラエル(6.46%)に比べかなり低い。全世界の平均(2.43%)よりは高い。ロシアの比率は2.84%であり世界平均を上回り MENA 諸国と比較した場合、イラン(2.56%)よりやや高いレベルである。一方、日本及び中国は共に1%台(中国1.30%、日本1.00%)であり、世界平均の2.43%に比べかなり低い。MENA19カ国中で1%台はエジプトとチュニジアの2カ国だけであり経済大国である日本と中国の国防費の GDP 比率は世界的に見ても低いことがわかる。

5. 兵力の比較:正規兵力ではイラン、トルコ、エジプト、予備役を加えるとイスラエルが No.4

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/18-G04.pdf参照)

MENA 諸国の中で兵員数(正規兵力)が最も多いのはイランの52万人であり、ついでトルコ(51万人)、エジプト(44万人)がいずれも50万人前後の兵力を抱えており、MENA の中では際立って多い。イラン、トルコ、エジプトの人口はほぼ同規模の7千万人前後であり、兵員数も拮抗していることがわかる。

これら3カ国に続く第4位はシリア(30万人)、イラク(27万人)、サウジアラビア(23万人)、モロッコ(20万人)であり、イスラエルの兵力は18万人で MENA では第8位である。但しイラク、サウジアラビアを除く各国には多数の予備役がおり、この数を加えるとエジプトが最も多い92万人に達し、トルコ及びイランそれぞれの総兵力はトルコ89万人、イラン87万人を数える。そしてイスラエルには正規兵力の3倍以上の57万人の予備役がおり、これを加えると同国の兵力は74万人となり、一挙に MENA4位の規模に躍り上がる。

一方、サウジアラビア以外のGCC諸国はいずれも人口が少ないため兵力も極めて少なく、例え

ば UAE は5万人、オマーン、UAE も4万人に過ぎず、クウェイト、カタール、バハレーンに至ってはそれぞれ1.6万人、1.2万人、0.8万人にとどまっている。第1項及び第2項に述べた通りこれら豊かな産油国は国防費総額或いは一人当たりの国防費では MENA のトップグループである。これらの国々は兵力の少なさを軍備で補っていると言えよう。

因みに日本の自衛隊の兵力は25万人であり予備役を加えて30万人とされている。正規兵の兵力は MENA5位のイラクとほぼ同数であり、イスラエルよりは多いが、予備役を加えた場合はアルジェリアと同程度で、イスラエルには及びもつかない。米国、ロシア、中国は正規兵で100万乃至200万人規模、予備役を加えると米国240万人、中国280万人、ロシアは2千万人を超えており、MENA 各国或いは日本とは比較にならない規模である。

6. 主要国の国防費の推移:毎年伸びているサウジアラビアと中国、中国は過去5年間で倍増

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/18-G05.pdf参照)

サウジアラビア、イスラエル、UAE、トルコ及びイランの MENA5カ国に日本、中国を加えた7か国の2006年から2010年の5年間の国防費の推移を見ると、2006年は日本が最も多く(411億ドル)、これに中国(352億ドル)、サウジアラビア(295億ドル)が続いている。他の4カ国はイスラエル(116億ドル)、トルコ(116億ドル)、UAE(95億ドル)、イラン(89億ドル)で各国とも100億ドル前後で並んでいる。

上位3カ国の国防費を見ると中国の伸びが著しく、2007年には日本を追い抜きその後も毎年大幅に増加、2010年には2006年の2.2倍の764億ドルに達している。サウジアラビアも毎年増加しており2010年は2006年比1.5倍の452億ドルであった。日本は2006年から2007年は横這いであったが、その後は毎年増え続け2010年は544億ドルである。

イスラエル、トルコ、イラン及び UAE4カ国の国防費は2006年から2009年までは増加或いは減少を繰り返しほぼ横ばい状況が続けたが2010年は各国とも急増している。2010年の4カ国の国防費はトルコ174億ドル、UAE161億ドル、イスラエル140億ドル、イラン106億ドルであった。これらは前年の2009年に比較すると、トルコ1.6倍、UAE2.0倍、イスラエル1.03倍、イラン1.2倍であり、イスラエルを除く3カ国の増加率が高い。これはイランの核開発疑惑を巡りペルシャ(アラビア)湾情勢が緊迫化したことが大きな要因であろう。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp